資料 1-6-2

土木学会鋼構造委員会資料

2005 年 11 月 11 日

新小委員会設立の提案

埼玉大学　奥井義昭

＜小委員会名＞
合成桁の限界状態に関する調査検討小委員会

＜設立主旨＞
少数主桁連続合成橋梁は経済的な橋梁形式として受け入れられつつある。しかし、現在までのところ依然として許容応力度設計法を用いて設計されており、一層の合理化を図るためには、限界状態設計法への移行が必要視されている。実際、次期の道路橋示方書の改訂には限界状態設計法への移行が明言されており、これらの動きに対して能動的に対応するために、鋼構造委員会は鋼・合成標準示方書小委員会を設置し、現在、部分安全係数フォーマットに従った限界状態設計法に基づく設計基準を検討・作成している。しかし、当然のことながら標準示方書小委員会は主に基準の策定に重きを置き、自らが先導的に基準策定のための研究を行うものではない。そのため、一部の基準においては海外基準や過去の慣用的手法をそのまま利用したものもあり、開発された基準が十分な説得力を持って利用されるようになるためには、裏付け資料や関連する研究データの蓄積・公開が必要と考える。さらに、今まで十分な研究データが蓄積されていると考えられていた項目においても、最近の少数主桁合成橋梁のプロポーションとは乖離したデータに基づき策定されたものが含まれているなど、新たな問題も指摘されている。

このような背景から、本小委員会では、国内外の設計基準類と最近の研究成果を詳細に調べ、標準示方書小委員会における基準策定のための裏付け資料や研究データをまとめるとともに、標準示方書委員会設計部会で審議が完結しなかった項目について、設計指針案基となる資料の作成を目指す．委員会の成果は報告書としてまとめる予定.

＜委員長候補者＞	奥井義昭　埼玉大学
＜幹事候補者＞	酒井修平　中日本高速道路株式会社
	山口栄輝　九州工業大学
	中村聖三　長崎大学
	野上邦栄　首都大学東京
	丹羽量久　JIP テクノサイエンス株式会社
＜委員の決め方＞	公募による
＜活動予定期間＞	3 年間